

## 開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに**33回、累計で1017件、助成総額25億3500万円**に達しています。

当財団はこれらの研究がさらに進展し、研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてこのテーマに関心をもたれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で第27回を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「人間活動と環境保全との調和に関する研究—持続可能な循環型社会をめざした農林水産業等(社会経済活動)の今後の取り組みに関する研究—」を募集課題とする学際的総合研究助成に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

近年、日本の農林業分野は輸入産物の増加、後継者不足等から産業としての存続の危機に直面しています。さらに、農林業に依拠している農山村の地域社会においては、過疎・高齢化等によりコミュニティそのものの存続も危ぶまれています。また、こうしたなかで、いわゆる中山間地域の持つ環境保全をはじめとする多面的な機能も失われつつあります。そのような意味において、今まさしく、**農業・農村の再生が喫緊の課題**となっています。

今回発表いたします研究は、このような危機的状況を克服するために、各地域における“自然資源経済”の再生とその持続可能性を確保していくための総合的政策研究の実施を目的として行われており、農業・農村の再構築を具体的に実現していくための新たな政策体系を提示することを目指しております。

まず、代表研究者である日本環境会議代表理事の岡本雅美氏から、研究の趣旨を説明いただき、次に「地域の力・市民の力が社会を変える」と題して藤井絢子氏から特別講演をいただきます。休憩をはさみ、「農業・農村の再生の現場から」、「日本の農業・農村の現状とこれからの可能性」という題で、現場での取り組みの紹介とこれからの動き・方向性について発表いただきます。その後、休憩をはさみまして、農業・農村の再生に向けた地域連携の政策論に関しての総合討論を行います。

このワークショップの開催が、「自然環境と調和した社会の実現」のために、私たちが環境問題の解決や生態系の保全、地域社会の新たなあり方を模索し、第一歩を踏み出すきっかけとなることを強く願っています。

**公益財団法人 日本生命財団  
公益財団法人 ニッセイ緑の財団  
「持続可能な農業・農村の再構築  
をめざす研究会」**